

P158

ページ下部のマスグレイブ・ミラーの指標は、その指標を「 α （アルファ）」とします。
式も現在の「 $\Delta Y = \sim$ 」から「 $\alpha = \sim$ 」へ変更します。

マスグレイブ = ミラーの指標 (α)

$$\alpha = 1 - \frac{\text{税金が所得に依存する場合の乗数}}{\text{税金が所得に独立した場合の乗数}}$$

P159

P158のマスグレイブ・ミラーの指標を「 α （アルファ）」に変更したので、問題の解説部分の式もそれに合わせ、「 $\Delta Y = \sim$ 」から「 $\alpha = \sim$ 」へ変更します。

【問題 078】の解答と解説

マスグレイブ = ミラーの指標を用います。

$$\alpha = 1 - \frac{\text{税金が所得に依存する場合の乗数}}{\text{税金が所得に独立した場合の乗数}}$$

$$\alpha = 1 - \frac{\frac{1}{1 - c(1 - t)}}{\frac{1}{1 - c}}$$

ここで、問題文より $c = 0.8$ 、 $t = 0.25$ を代入します。

$$\alpha = 1 - \frac{\frac{1}{1 - 0.8(1 - 0.25)}}{\frac{1}{1 - 0.8}} = 1 - \frac{2.5}{5} = \frac{1}{2}$$

P179

トービンの（平均の） q に関する説明文で、上部の表の分子の部分に現在の「株式市場が評価する企業の株価の時価総額」に「負債総額」を付け加えます。

で示されます。

分子	企業の市場価値	株式市場が評価する企業の株価の時価総額 + 負債総額
分母	既存の資本の買換費用総額	現在、企業が持っている資本設備（土地や工場など）を新たに買い換えるとかかる費用の総額

このとき、

なぜ、分子に「負債総額」が加算されるかについては下記の動画を参照してください。

【動画】国家総合職「経済理論」の過去問解説（15）トービンの「平均の q 」の計算

<http://keizaimori.blogspot.jp/2016/12/15.html>

P205

P205中段、プロセス3 数式化、資本（K）の説明部分につき、「資本の投入量をL、生産量をYとします。」となっていますが、「資本の投入量L」は、「資本の投入量K」となります。

プロセス-3 数式化

次に、このように決まる生産関数を式で表します。

労働 (L)	資本 (K)
労働の投入量をL、生産量をYとします。	資本の投入量をL、生産量をYとします。
↓	↓
そこで生産量1個につき、投入される労働の大きさをaとすると、式で表せます。	そこで生産量1個につき、投入される資本の大きさをbとすると、次の式で表せます。
$a = \frac{L}{Y}$	$b = \frac{K}{Y}$
このaを労働係数と呼びます。	このbを資本係数と呼びます。
↓	↓
これをY=～の形にします。	これをY=～の形にします。
$Y = \frac{L}{a}$	$Y = \frac{K}{b}$

数値は、固定係数型生産関数、またはレオンティエフ型生産関数とも呼ばれます。

K

以上、よろしくお願いいたします。